

FUNCTION

ファンクション
ウェブ マガジン

PEOPLE & CULTURE MAGAZINE

2014.January Vol.002

Genius of BONSAI
Masashi Hirao



盆栽の天才。

平成25年度文化庁文化交流使

盆栽師 **平尾成志**

顔本 KAO-BON

俳優 **柴野弘志** × 俳優 **不破大志**

[Recommend] **Fun running**

[Guest column] **矢守忠彦 他**

〈PR〉



海外のタレント、モデル、お探しですか？

男性、女性、子供、ナレーターまで、もちろん、国内タレント、モデルもご紹介します。

ECHOES

<http://www.echoes-tokyo.com>

〈PR〉

Web 制作向け**無料**写真素材!ぱくたそ



PAKUTASO

www.pakutaso.com





[Special Future]

盆栽の天才。

Genius of BONSAI

盆栽師 **平尾成志** Masashi Hirao



[Recommend] Fun running

風まかせランのススメ。

Smartphone & RUN

風まかせランナー 本間貴志



顔本  **KAO-BON**
[Interview]

俳優

俳優

柴野弘志 × **不破大志**

Facebookは、米国フェイスブック株式会社が
提供するソーシャル・ネットワーキング・サービスです。

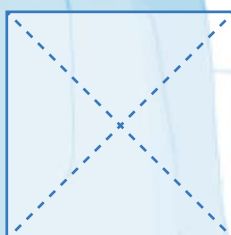
[Guest Column]



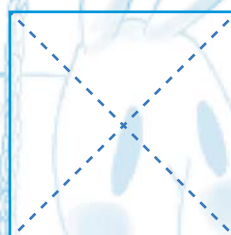
矢守忠彦



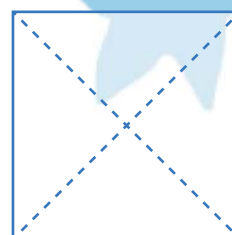
不破大志



COMING SOON!



COMING SOON!



COMING SOON!



[Editor's Note]

From
BACKYARD

FUNCTION Project Partners.



INDEXイラスト
都築知沙

Genius of BONSAI

盆栽の天才。

平成25年度文化庁文化交流使

盆栽師 **平尾成志**

盆栽はロックだ!!

取材、文 矢守恵彦 / 撮影 河住祐二 Advance K&B Farms

平成25年度の文化庁文化交流使に選ばれた平尾成志（ひらおまさし）
彼は盆栽師だ。多くの方にとって盆栽は日本文化でありながらもとても
遠い存在ではないだろうか？

彼はロックの精神で、今、盆栽の未来を切り開こうとしている。

…盆栽師ってなんですか？

簡単にいうと盆栽の職人ですね。盆栽師って名乗ると庭木？庭師？サ
ボテンとか？って聞かれることがあって。…例えば、渋谷の若者にも
「これが盆栽だ」って語ってもらえるように普及したいですね。

…文化交流使に選ばれた経緯は？

最初は、自分で海外に行って活動していたんです。イベントの交渉か
ら、盆栽の準備まで。海外でも「Bonsai」として広く知られていま
すが、言葉が一人歩きしているところがあって、ヨーロッパでは曖昧に
「ああ、あの東アジアの文化ね…。」

程度の認識だったりします。

そこで、きちんと日本の盆栽を披露して正しく認知してもらいたいな
と。そういう独自の活動が盆栽協会にも評価されて、今回推薦しても
らえたんだと思います。

…海外ではどんな活動を？

イベントで盆栽のデモンストレーションを披露したり、向こうの文化と

KURO MATSU

BLACK PINE



一体感を持つためによく飲みに行っていましたね。「お、ちょっと変わった奴が来たな」と思わせるために、そういう飲ミニケーションを大事にしました(笑)。とにかく修行時代から人と会って話すことを重視していました。

2017年に盆栽世界大会が大宮で行われる。ここでも奨めたいのは、日本の人達が足を運び海外の人達と交流する事だという。

日本でも(デモンストレーションを)やらないかと言われますが、まだまだです。もっと海外で結果を出して認めて貰わないとね。

…日本の実績作りの方が先では?

確かにその道筋は見てましたがそれが嫌だなあと。僕が認められたのはきつと行動力。海外のいわゆるジャパンフェスに盆栽を出展するために自費で参加したりして。でも結果「次回もお願いします」って、毎回呼ばれてます。

これは“お膳立てされた代表”で行くとすごく難しい。協会のツテを使ってしまうと「盆栽の～」でしかなくなってしまうから。

…国際化で価値基準は崩れない?

盆栽の価値基準って、どうなんでしょうね。誰もが認める物は年数、歴史があって動きがあるものなんですが「評価されているけど俺は嫌い」っていう人もいますしね。統一できないんですよ。1つ1つのポイント(部位)を見る人。全体を見る人。樹種も真柏、五葉松、紅葉、楓の4種がメジャーですが海外では独自の樹木を使う事もあるので。

…自分の気に入ってる作品は?

基本的に“自分で自分の盆栽”を創作することはないです。盆栽は生き物で常に変化しつつけて「受け継いでいく」ものなんです。剪定や針金を巻いて「関わった」という気持ちがすごく大事ですね。

高価な盆栽の中には百年物の樹木もあり、個人の作品や「完成形」という概念が無いのだ。

盆栽を「継承していきたい」という気持ちが強くて、次の世代を作っていけないと意味がないと思って。

Genius of BONSAI

KEYAKI

ZELKOVA WINTER Ver.



独立出来たら弟子が欲しいです。チャレンジ精神を持っていて社会常識もある「人」を育てていきたい。…そんな後継者を輩出できたなら、それで継承したのかなって。

今は、世界中の人達にデモンストレーションを見てもらって、1万人に1人にもでも買ってもらって、更にその中の1人でも盆栽に関わる仕事に就こうと思ってもらいたい。とにかく、裾野を広げたいんです。

「ロックプランティング」という物がある。これは「創作盆栽」の事で、自分の理想郷を表現するものだ。平尾は海外でそれをもっと実践していきたいという。今年には、彼の海外での挑戦を追った「BONSAI WARRIOR」という映画が公開される予定だ。

…映画の見所はどこですか？

僕の本当の素の部分ですかね。

1人の人間がもがき苦しんで葛藤している様を撮って貰ってるし、日本には無い海外での盆栽の受け入れられ方が見所ですかね。

…盆栽を始めたい方へ何か。

盆栽の価値や格式から始めても、勿論いいんですが、肩肘を張らずに、「この子と目があった。」「気に入った。」というところから、始めてもらいたいです。観葉植物より手間がかかる分、感覚としてはペットに近いかもしれませんね。

その手間がかかること自体を、そして、生活の中に緑があることを楽しんでもらいたいですね。

平尾成志は新しい事に挑戦し続けている。と同時に、今あるものを大事にしている。なぜなら「受け継いでいく」という盆栽の精神に基づいているからだ。逆に言えば、新しい事に挑戦し続けなければ“今、そこにあるものは保てない。”ということだ。これは、どの国にもある事だが、こと、日本古来の文化財については急務と言えるだろう。

「個」の尊厳が優先される現代、「継承する」という生き方に自ら手を挙げる者は少ない。

「継承する」とは「維持する」以上に戦い続けることだ。ロックで無ければクラシックたりえないのである。

さて、僕らは何を「受け継ぎ」何を「残す」ことが出来るだろうか？〈了〉



平尾成志 (Masashi Hirao)

1981年2月15日徳島県生まれ。
大学卒業後、埼玉県さいたま市大宮盆栽村「蔓青園」にて加藤三郎氏に弟子入りをする。
海外での盆栽普及活動が評価され、平成25年文化庁文化交流使に任命される。欧州やオーストラリア等において盆栽展示やデモンストレーション等を実施。現在、鯉と盆栽を海外に向けて輸出販売を行っている株式会社「Advance K&B Farms Corporation」にて会社役員としての活動も手掛けている。

撮影場所：蔓青園

風まかせランのススメ。

Smartphone & RUN

取材、文 本間貴志(風まかせランナー)



どの分野でも、ブームがあるもの。

ランニングの場合、トレイル・ランを筆頭に「旅ラン」「食ベラン」などがブームだ。ブームといっても、ランニング雑誌の特集になるほどではなく、ゆるラン派の間でちょっと盛り上がってるよねー。というくらいのちょこっとブームだ。

ちなみに「旅ラン」というのは、何十キロ、時には、100キロ以上を走ってバイクのツーリング感覚で旅を楽しむというもので「食ベラン」というのは、いい感じの食堂やカフェを見つけたら、寄り道をしてランニングをするというもの。この「食ベラン」をさらにゆるーくして、なりゆき任せにしたのが前回紹介した「風まかせラン」である。

さて、では次に来るブームは何か？

それは、間違いなく「フォトラン」だ。

その名の通り、ランニングをしながら、おっ!これは!という景色に出会ったら、写真を撮るというもの。

車、バイクなどの乗り物に乗っていたらアッと言う間に景色は過ぎ去っていく。散歩は、行動範囲が限られるのでいつも同じ景色に陥りがち。そこそこいくと、ランニングは景色を見つけるのにほどよいスピードで行動範囲も広いという訳。

フォトランが盛り上がりを見せる背景には、もう一つ「スマートフォン」の浸透が大きく影響している。

ランナーにとって荷物は1gでも軽くしたいもの。フォトランのために、カメラを持つという人は少数派だ。スマホなら、音楽も聴け、距離をアプリで計れる。ほとんどがスマホ持参で走っている。その延長で「写真も撮っちゃう」というのがフォトランがジワジワ来ている背景だ。

実際、ランニング中に出合った景色をSNSに投稿する人が急増中。最近、自分のフォトランで好評だったのが、スカイツリーのバックに富士山がちょこんと見える写真(↑)。ベタベタな写真だがFacebookのランニングサークルではあっという間に70超の「いいね!」を頂いた。そう、ランナーの皆さんは心優しい人ばかりなのである。

本間貴志 (Takashi Honma)

1974年5月7日、秋田県生まれ。

高校卒業後、経営雑誌のライターを経験する。以降、デザイン会社・企画会社・広告代理店など数社をコピーライターとして10年間渡り歩き、現在アスラン編集スタジオに入社。コンテンツ・ディレクターとして、主にビジネス書を中心とした様々な書籍制作に関わっている。

顔本

f KAO-BON

Facebookは、米国フェイスブック株式会社が提供する
ソーシャル・ネットワーキング・サービスです。

Vol.02

俳優 柴野弘志

HIROSHI SHIBANO



俳優 不破大志

TAISHI FUWA

●今の職業以外でやってみたい職業は？

不破：政治家かな。

柴野：あれだもんね。青年会議所で一緒にやってた人が今、都議員になってたりして。

不破：うん。そういう時に応援で人の前に立ったりしたりしてた。「誰々をよろしくお願いします。」って感じてね。

柴野：演説の時って、あらかじめ言いたい事書くの？

不破：いや、書かなかったよ。自分でも次から次に良く出てくるなって（笑）。その時に拍手を受けたんだけど、まー気持ちよくてね。舞台の拍手とは質が違うんだよ。応援の拍手なんで。

柴野：学生の時、生徒会もやってたんだよね？

不破：不良も結構いる学校だったんだけど、不良にはなれないけど、権力はありかって…ね。トップ当選して楽しくやってた。やっぱり「力」に憧れるってところがあったんだろうね。人前に立って喋るのはその頃から得意だったかな。権力が欲しいんだろうね（笑）。今、無いから（笑）。

●これだけは譲れないというポリシーは？

不破：お客さんのためにお芝居をやる。自分の為にはやらない。それだけは何があっても優先。客演で出てもそこに向かっていかない演出を見ると気になるところあるよなあ。誰のためにやってるんだろ？って。

柴野：確かにね。勿論、どれだけお客さんの事を考えてお芝居を作っても、観方は沢山あるし、必ず賛否両論は出てくるんだけど、お客さん全員が「YES」って言ってくれることを目指したいよね。

不破：もちろん、お客さんにとって楽しいだけじゃない作品、耳障りの良くない物も提供することも含まれてるけどね。前にやってた劇団でも、戦争裁判の事を題材にしたり難しい問題も扱ってた。そこは結局、お客さんの自己判断になってしまうんだろうけど、これもお客さんの為の観点で、今必要なんだ、知ってほしいと思う事を提供したい。

そういうものを含めてポリシーとして覚悟していくことが、重要なんだと思うんだよな。

柴野弘志 × 不破大志

●カッコいいなって思う生き方はどんなものですか？

柴野：あーこれは、いつもあなたが言ってることですな。

不破：もう崇拜する(尊敬する)立川談志さんの生き方ですよ。この人はもう本当に天才だから、それこそ自分の為に…という生き方でいいと思っただけ、それでお客さんもすごく喜んでくれるから。もちろん批判的な人もいますけどね。「人生成り行き」って言っちゃうんですから。たださらにそこで、あの人の中にあるもの凄いの知識がデータ化されていて、それを表現できる羨ましさ。それが、理想像かな。「酒、タバコを辞めろ」という人は最も意志の弱い人間だ。吸い続ける意志の強さを持って」という、ユーモアというにはエッジの効きすぎのあの感じがどうしても俺にはカッコいいと映ってしまうんだよね。スポーツで頂点を極めた人も確かにカッコいいと思うけど、しびれないんだよ。

柴野：毒の出し方と言うか、相手を引かせない言い方だね。

不破：そう。辛口コメンテーターとは違うね。だから、これから役者として習熟していく中で、お手本となる生き方なんだよね。



●「ハイテンション」にさせるものは何ですか？

不破：もうこれは、酒でしょ。

アイドルとか応援してテンション上げられる人とか、あれだけ夢中になれるものがあれば、それはそれで羨ましいと思うけど。

柴野：芝居がハイテンションにしてくれるっていうのは、確かにあるかもしれないけどね。

不破：それだって「酒」とセットになってる。

例えば、大勢のお客さんからの拍手を受けました、よし!打ち上げの酒が待ってるぞ!とか。誰かと話していて楽しい時も隣に酒がある。

舞台もテンションあがるけれど、…舞台をMAXテンションでやるとロクな事が無い。

柴野：(笑)

不破：若い時は全力でやってたけど。気負っちゃって。そういう時は、1つ芝居が噛み合わないとか修正できないほど崩れたりしてボロボロになる。だから、今は本番前に「しょうがねえから、やってくるか」って一言発してから、お客さんの前に出るようにしているんだよね。

知らない人が聞いたら凄い誤解されるけどね(笑)。

不破大志は、良い意味でも悪い意味でも“大人”なんだと思う。

酒が好き、煙草が好き、女が好き。

そう簡単に言い放つ事ができるある種の覚悟が感じられる。

柴野弘志と共に立ち上げる劇団俵屋総本店は今年から本格始動をする。トークテーマとは別に劇団の将来の話も聞く事ができた。

酒好きの2人は、演劇の話になると、とどまる事をしらない。延々と続いていくことになる。聞いているこちらも、ある種の覚悟が必要だ。

立川談志師匠の言葉を借りるならば「最も意志の強い2人」ということになる。今後の活躍が楽しみだ。

今回は彼のネットワークからゲストをご紹介します。対談もしてもらいます。「六次の隔(へだ)たり。」いつかあなたをゲストに迎えます。

演劇バカー代



演劇は排泄行為なのだ?!の巻

演 劇でやる事は、大きく分けて2つある。1つは、出す(アクションする)事。もう1つは、受ける(リアクションする)事だ。今回は出す(アクションの)話。

「声を出す。」「感情を出す。」演技全般の表現がそれにあたるものだが、もっと“生理的”なところで捉えてみることにする。

内にあるものを出すことは、「排泄行為」だ。汗、尿、体液に関わらず、体内に溜まっていたものを排出するという行為は気持ちがいいのである。これは声や、感情にも言える。さらに声とは呼吸。呼吸とは息をすることである。「息をはく」転じて「気をはく」に通じるのだ。

これがとても大事で、ダイエットのデトックス(解毒)と同じで老廃物を出す効果が期待できるのだ。

気持ちやストレスも目には見えないけど同じで、モヤモヤしたものを抱えたままだと体を悪くする。

だから“出してしまえばいい。”

よく人と話をするだけでスッキリするという理由がこれだ。

演劇は出す。ひたすら出す。過剰に出す。出す。出す。出す。出さないと伝わらないからだ。

腹の底から「気をはく」。人前に立ってものを表現するときに、「ちょっとでいい」なんてものはないし、どんな表現も何も考えずにぼーっとは立ってられない。(演技の極致みたいな話は脇に置いておいて。)

皆、コンプレックスがあったり、自信が無かったり、ストレス、鬱、コミュニケーションがうまく取れない、等々。内側に溜まった自分でもよくわからないモヤモヤしたものは、全部出してしまえばいい。

そう、演劇は排泄行為なのだ。

山で「ヤッホー」。海と夕日に向かって「バカヤロー」と叫ぶのを躊躇っている方。演劇をオススメします。

矢守忠彦 (Tadahiko Yamori)

俳優、プロデュースユニット・モリンチュ代表

1981年6月30日、滋賀県生まれ。

高校より演劇をはじめ、脚本、演出を手がける。大阪芸術大学演劇専攻を卒業後、数々の劇団で客演を経験する。2013年より自身のプロデュースユニット「モリンチュ」を設立。演劇を中心とした様々なジャンルを幅広くカバーし、役者のみならず脚本や原稿の執筆としても活躍している。

f www.facebook.com/tadahiko.yamori

右がわの夜空に。

ニャ〜。

the night sky on the right side

人のことを勝手に「右」とか「左」とか言わないで(泣)。

タイトルを見れば、私がどういう感じに思われているか、ぼんやりとイメージがつくはずだ。

シンプルに分類すると私は「右側」いわゆる「保守派」となるわけだ。理由は簡単。反対側の思想を主張する人と極端に相容れないからなのである。

要するに“ダイキライ”なのだ。

何かって言うと「権利」だ「自由」だ「平等」だという言葉を経々しく口に出す人たちが。「誰かが自分を守ってくれる」と信じ込んでいて、そうではないと「国が悪い」だの「社会に問題がある」と言って弱者を気取り徒党を組み、それを「力」に代えようとする破廉恥な人たちが。「屁理屈」と「運動」で世の中が変わると信じているお馬鹿な人が。

いや、ちょっと待て。

「反対側」の人たちに限ったことじゃない。いるいる。ネトウヨという、顔

の無いことをいいことに“便所の落書き”してるキモチ悪い人。

“ある特定の国の人”というだけで無条件に毛嫌いして、恥を知っている人なら、およそ口にしない言葉を街中で叫んでいる悲しい人。

こいつらも“ダイキライ”だ。

つまり、「保守したいこと」が違うんだよね。私。この国の「国体」とか「社会構造」とかではナインだと思うのよ。私たちの中でたぶん眠ってしまっているものなんだ。

それは何か。あるのよ。一言で片付くスバラシイ日本語「了見」。

これを皆がきちんと形成していかないと、私たちのアイデンティティなんて語れないし、日本の「文化、歴史、風土、精神」なんてただの見えない器だよ…。

逆に、そこさえきちんと確立できたら、確認することができたなら、それこそ日本人は、胸を張って「先導動物」になれると思うのよね。

見ためか? 見ためなのか!?

不破大志 (Taishi Fuwa)

1980年7月15日、神奈川県生まれ。

高校より演劇をはじめ。2002年より劇団「TEAM JAPAN SPEC」代表を務める。

2011年、同劇団活動休止後、フリーの俳優として数々の劇団で客演を経験する。

現在、下北沢にあるステージカフェ「下北沢亭」の運営と自身の新しい劇団「俵屋総本店」の設立を目指して活動をしている。

f <https://www.facebook.com/taishi.fuwa>



Editor's note



撮影協力: yummy cafe koenji

無事に2回目を迎えることが出来ました。これで「点」だったものに繋がりが生まれ「線」になり、ようやく形となってきたと思います。

特集でお世話になった平尾さん、そして彼を繋いでくれたAdvance K&B Farmsの高田さんには本当に感謝です。ありがとうございます。今まで特集をやってきて思ったのは、若くして興味を惹かれる人とはとても“アクティブ”ということ。まず、人と出会う事を大切にしている。平尾さんは、伝統的な盆栽をきちんと伝えていくことに尽力し、海外に対しても抵抗がないことが活動に生きていました。

実際にお会いしてみると、ものすごいマジメで、職人であることを大事にしていると感じましたね。

顔本の対談ゲストである不破君にはトークやコラムからも信念が見えてくる良いものになりました。

「僕の隣にこんな面白い人がいる」がこのマガジンの裏テーマ。表現者が集まる“たまり場”的な存在でありたい。これから、人とあなたとまだ知らないモノを繋げていきます。



次回予告

FUNCTION

2014.April Vol.003



[Special Future]

喰べるってこと (仮)

[Recommend] Fun running

風まかせランのススメ。

[Interview] KAO-BON

俳優

ドラマー

不破大志 × 平石正樹

[Guest Column]

モリンチュ 矢守忠彦 他



究極の唐揚げ専門店

Taste of Ultimate!



<http://karaagemiyako.com>

Support Staff

企画・構成 河住祐二(株式会社トランスクリプション) / 編集 本間貴志(株式会社アスラン編集スタジオ)
ウェブ・コーディネート 前島智恵(株式会社トランスクリプション) / 企画・取材 矢守忠彦(モリンチュ)
編集協力 鷺見拓哉(有限会社時遊区) / 企画 不破大志(劇団俵屋総本店) / INDEXイラスト 都築知沙

Special Thanks

Advance K&B Farms Corporation / 大宮盆栽村 蔓青園 / ステージカフェ下北沢亭 / yummy cafe
株式会社トランスクリプション / モリンチュ / 劇団俵屋総本店
株式会社エコーズ / PAKUTASO / 京-みやこ-(18Production) / 平尾成志 / ウッディハウス